

平成23年度宮古群島病害虫発生予報第9号(12月予報)

I 12月の気象予報

向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

	平均気温	降水量	日照時間
高い(多い)	50	40	20
平年並	30	40	40
低い(少ない)	20	20	40

(平成23年11月25日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

平年値

	平均気温(°C)	最高気温(°C)	最低気温(°C)	降水量(mm)	日照時間(h)
宮古群島(宮古島)	19.7	22.0	17.8	131.3	101.3

(沖縄気象台発表・統計期間1981~2010・資料年数30年)

II 12月の発生予報および防除上の注意事項

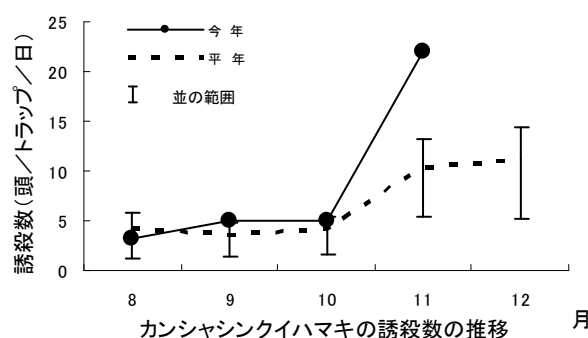
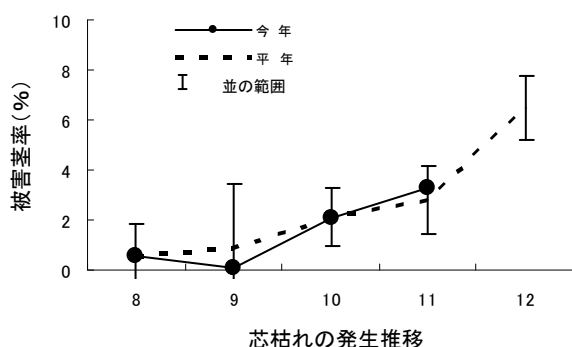
1 さとうきび

(1) メイチュウ類

発生程度 : やや多

予報の根拠

- a 11月中旬の調査の結果、新植圃場での芯枯茎率は3.3%(前年0.3%、平年2.8%)と平年並であった。また、一部圃場で多発していた。
- b 11月のカンシャシクイハマキ合成性フェロモンによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は22.1頭(前年12.8頭、平年10.4頭)と平年より多かった。



<防除上注意すべき事項>

- a ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- b 夏植えの生育初期の加害による芯枯れ防止をねらい、食入初期の幼虫を対象にした薬剤防除を行う。
- c 培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選定し施用する。

○ 野その防除対策

- a 11月中旬の調査の結果、被害茎率は0.5%(前年0.4%、平年0.5%)と平年並であった。
- b 雑草が繁茂した環境を好むことから、除草を行う。
- c ブリックス上昇に伴い被害の増加が予想されることから、台風等により倒伏している圃場や例年被害が多くみられる地域では、薬剤防除を徹底する。

2 マンゴー

- 花芽分化期の病虫害防除対策
 - a 11月下旬の調査の結果、チャノキイロアザミウマの葉当たり成虫数は0頭(前年0.1未満、平年1.0頭)と平年より少なかった。
 - b チャノキイロアザミウマやハダニ類、カイガラムシ類の発生動向に注意し、防除を徹底する。
 - c チャノキイロアザミウマの寄主植物となる施設内外の雑草を除去する。
 - d 炭疽病、軸腐病およびかいよう病対策のため予防散布を行う。また、残渣物は速やかに施設外に持ち出し処分する。
 - e 現在発生している不要な新梢は、病虫害の発生源となることから、ビニール袋等に入れ圃場外に持ち出し処分する。

3 かぼちゃ

- モザイク病の防除対策
 - a 11月下旬の調査の結果、モザイク病の発生株率は、7.0%(前年0%、平年1.3%)と平年より高かった。
 - b 発病した株は早期に抜き取り、処分する。
 - c 媒介虫であるアブラムシ類の発生源となる圃場内外の雑草を除去するとともに、薬剤防除を行う。
- 着果期までの病虫害防除対策
 - a 着果期以降はうどんこ病の発生が増加しやすいので、予防散布を行う。多発すると防除が困難になるので、葉裏をよく観察し、早期発見・早期防除に努める。
 - b ハモグリバエ類、アブラムシ類、タバココナジラミ等の害虫は、発生源となる圃場内外の雑草を除去し、早期発見・早期防除に努める。

4 にがうり(施設)

- うどんこ病の防除対策
 - a 11月下旬の調査の結果、一部の圃場でうどんこ病の発生が確認された。
 - b ネット下の葉や老葉などを除去して透光通風をよくする。
 - c 粉剤などで予防散布を行い、発生が確認されたら防除を徹底する。

5 とうがん(施設)

- 交配～収穫期の病虫害防除対策
 - a 11月下旬の調査の結果、一部の圃場でハモグリバエ類の発生が確認された。
 - b ミナミキイロアザミウマ、ハモグリバエ類、タバココナジラミ、ハダニ類等の害虫は、発生源となる圃場内外の雑草を除去し、早期発見・早期防除に努める。
 - c うどんこ病は粉剤などで予防散布を行い、発生が確認されたら防除を徹底する。また、着果期以降は不要な下葉を除去し、透光通風をよくする。